

③ 防災学習会

防災パンフレットをもとに、患者様やそのご家族の皆様にも、防災に対する共通認識を持って頂き、いざというとき自分自身の身を守るように防災学習会を開催しました。



④ 緊急時透析カード

透析されている患者様は、外見からは透析を行っているかはわかりません。個々の透析条件を記入したカードを、患者様一人ひとり携帯して頂いています。

これにより、当院以外の場所で緊急に透析を受けなければならないことがあつた際、迅速に対応してもらうことができます。

⑤ 171 伝言ダイヤルサービス

大規模災害時には、電話回線の輻輳

(ふくそう)により、家庭の電話も携帯電話も長期間にわたり使用不能となることが予想されます。

そんな場合にも、患者様が腎センターの状況等の情報を得ることできるように、また、緊急連絡の手段として、NNTの171災害時伝言ダイヤルサービスを利用できるように利用方法を説明しています。

お知らせ

9/1の防災の日にあわせ、**伝言ダイヤル171**を実際に体験することができます。

日時

8/30 ~ 9/5
9:00 ~ 17:00

みなさんもぜひお試しください!!

⑥ 救護所と地域分布図(防災地図)

大規模災害時に被災した患者様が、まずどこに救護所に行けばよいか、防



緊急時透析カード

災地図により説明し、混乱をきたさないようにしています。

救護所におけるトリアージで、透析患者であることを告げる必要があり、このときも、このカードが役に立ちます。



防災地図

3 臨床工学技士の取り組み

腎センターには、医療機器や設備を安全に、迅速に運用できるように保守点検・操作を行っている「臨床工学技士」が5名います。

この臨床工学技士も、腎センターでの避難訓練に参加し、大規模災害時における透析装置に関する勉強会をスタッフに対して行うなど、いざというとき全てのスタッフが、正しく迅速な対応ができるようにしています。

また、災害に備え、透析に必要なダイアライザーという人工腎臓などの物品を数日分備蓄管理し、さらに透析装

置が修理できるよう、部品の管理や日常保守を行っています。



緊急離脱中

4 「自分の命は自分で守る！」

以上のように、腎センターでは様々な防災対策を行っていますが、予想される東海地震などの大規模災害では、当院は、もちろんのこと、周辺の病院・医院、さらには県内全域の透析機能が麻痺する事も予想されます。

このような場合に備え、市役所、県そして県外の病院等との連携などをさらに整備していく必要が考えられます。

あわせて、患者様ご自身で、「自分の命は自分で守る」という意識を常に持ち、被害を最小限に抑えられるように、大規模災害に備えていきたいものです。